

6. 選抜方法及び試験科目

入試制度	選抜方法
一般入試	筆記試験（下記の筆記試験科目表を参照）、口述試験、出身学校の成績等により選抜。
学内推薦入試	書類選考・口述試験により選抜。
国際協力経験者入試	書類選考（研究計画書、推薦書）・筆記試験（外国語※1）・口頭試験（研究計画に関するプレゼンテーション及び専門知識に関する質疑応答等）により選抜。
社会人特別選抜入試 （環境共生学専攻以外の全専攻）	<p>【博士前期課程・修士課程】</p> 書類選考（研究計画書）、口述試験（研究計画書に基づく内容、研究計画に関するプレゼンテーション及び専門知識に関する質疑応答等）により選抜。
社会人特別選抜入試 （環境共生学専攻）	<p>【博士後期課程】</p> 書類選考（研究業績書及び研究計画書）、口述試験（研究業績書及び研究計画書に基づく内容、研究計画に関するプレゼンテーション及び専門知識に関する質疑応答等）により選抜。
社会人特別選抜入試 （環境共生学専攻）	書類選考（研究計画書、推薦書）、口述試験（研究業績書及び研究計画書をもとに実施。研究計画に関するプレゼンテーション及び専門知識に関する質疑応答等）により選抜。

一般入試 筆記試験科目表（筆記試験の他、口述試験を実施）

博士前期課程

専攻	外国語※1	専 門 科 目	
		必修科目	選択科目
農学	英語又は日本語から1科目を選択する。	—	作物学、果樹学、野菜学、花卉学、植物病理学、応用昆虫学、育種学のうちから入学後専修を希望する科目と他1科目を選択する。
畜産学	英語又は日本語から1科目を選択する。	—	家畜繁殖学、家畜育種学、家畜生理学、家畜飼養学、家畜衛生学、畜産物利用学のうちから入学後専修を希望する科目と他1科目を選択する。
バイオセラピー学	英語又は日本語から1科目を選択する。	植物共生学、人間植物関係学、野生動物学、伴侶動物学、植物介在療法、動物介在療法の設問から任意の2問を選択する。	—
バイオサイエンス	英語	分子生物学	—
農芸化学	英語	生物化学（分子生物学の内容含む）	無機化学、有機化学のうちから1科目を選択する。
醸造学	英語	生物化学（一般及び微生物生理に関すること）	—
食品栄養学	英語	食品栄養学（食品生化学、調理科学、栄養生理学、保健栄養学、臨床栄養学の内容を含む）	—
林学	英語又は日本語から1科目を選択する。 ※2	—	森林生態学、治山工学・緑化学、造林学、林業工学、森林経営学、森林政策学、木材工学、林産化学のうちから入学後専修を希望する特論に関連した科目と他1科目を選択する。
農業工学	英語	—	地域資源利用工学、農村環境工学、広域環境情報学、地水環境工学、社会基盤工学、水利施設工学、バイオロボティクス、農産加工流通工学のうちから入学後専修を希望する特論科目に関連した1科目を選択する。
造園学	英語	—	造園史、造園計画学、造園工学、造園植物学、造園植栽学のうちから入学後専修を希望する研究指導分野に関連した科目と他1科目を選択する。
国際農業開発学	英語	—	熱帯作物学、熱帯園芸学、熱帯作物保護学、農業環境科学、農業開発経済学、農村開発協力学のうちから入学後専修を希望する研究指導分野に関連する1科目を選択する。

農業経済学	英語又は日本語から 1科目を選択する。 ※2	—	農業経済学※、農政学※、食料経済学※、経済学のうちから入学後専修を希望する※印付の1科目を含む2科目を選択する。
国際バイオビジネス学	TOEICスコア提出※3	バイオビジネス経営学	バイオビジネス経営・マーケティング論、情報処理論、バイオビジネス環境論のうちから入学後専修を希望する特論科目に関連した1科目を選択する。

※1 外国語を「英語」以外で受験する場合は必ず各専攻に問合せてください。外国語を「日本語」で受験できるのは外国人留学生のみです。

※2 外国語を「英語」で受験できるのは、英語を第一言語としない者のみです。外国人留学生でも英語が第二言語・第三言語等の者は「英語」で受験できます。

※3 国際バイオビジネス専攻博士前期課程の受験者は、TOEIC L&R 公開テストのOfficial Score Certificate (スコア証明書)の原本を試験当日に持参してください。

博士後期課程

専攻	外国語※1	専 門 科 目	
農学	英語又は日本語から 1科目を選択する。	作物学、果樹学、野菜学、花卉学、植物病理学、応用昆虫学、育種学のうちから入学後専修を希望する研究指導分野に関連した科目1科目を選択する。	
畜産学	英語又は日本語から 1科目を選択する。	家畜繁殖学、家畜育種学、家畜生理学、家畜飼養学、家畜衛生学、畜産物利用学のうちから入学後専修を希望する研究指導分野に関連した科目1科目を選択する。	
バイオセラピー学	英語	専門科目はなし。なお、口述試験はこれまでの研究成果に関するプレゼンテーションを含む試問。	
バイオサイエンス	英語	専門科目はなし。なお、口述試験は専門性を測るための試問。	
農芸化学	英語	土壌肥料学、植物生産化学、栄養生化学、生物有機化学、応用微生物学、食料資源理化学のうちから入学後専修を希望する研究指導分野に関連した1科目を選択する。	
醸造学	英語	酒類学、発酵食品学、醸造微生物学、醸造環境学のうちから入学後専修を希望する研究指導分野に関連した1科目を選択する。	
食品栄養学	英語	臨床栄養学、保健栄養学、栄養生理化学、食品科学、フードマテリアル学、食品安全解析学、食品安全評価学、食品利用安全学、分子機能学、生理機能学、生体環境解析学のうちから入学後専修を希望する研究指導分野に関連する1科目を選択する。	
林学	英語又は日本語から 1科目を選択する。※2	森林生態学、治山緑化学、造林学、林業工学、森林経営学、林政学、木材工学、林産化学のうちから入学後専修を希望する研究指導分野に関連した科目1科目を選択する。	
農業工学	英語	地域資源利用工学、農村環境工学、広域環境情報学、地水環境工学、社会基盤工学、水利施設工学、バイオロボティクス、農産加工流通工学のうちから入学後専修を希望する研究指導分野に関連した1科目を選択する。	
造園学	英語	造園計画学、造園解析学、造園技術学のうちから入学後専修を希望する研究指導分野に関連した1科目を選択する。	
国際農業開発学	英語	作物学、園芸学、植物病理学、応用昆虫学、農業環境科学、農業開発経済学、農村開発協力学のうちから入学後専修を希望する研究指導分野に関連する1科目を選択する。	
農業経済学	英語又は日本語から 1科目を選択する。※2	農業経済学、農政学、食料経済学のうちから入学後専修を希望する研究指導分野に関連した1科目を選択する。	
国際バイオビジネス学	英語	バイオビジネス経営・マーケティング論、情報処理論、バイオビジネス環境論のうちから入学後専修を希望する研究指導分野に関連した科目1科目を選択する。	
環境共生学	英語等又は日本語から 1科目を選択する。	入学後専修を希望する研究指導分野に関連する1科目。	

※1 外国語を「英語」以外で受験する場合は必ず各専攻に問合せてください。外国語を「日本語」で受験できるのは外国人留学生のみです。

※2 外国語を「英語」で受験できるのは、英語を第一言語としない者のみです。外国人留学生でも英語が第二言語・第三言語等の者は「英語」で受験できます。

修士課程

専攻	外国語	専 門 科 目	
		必修科目	選択科目
食品安全健康学	英語	生物化学 (分子生物学・有機化学・分析化学の内容を含む)	ケミカルトキシコロジー、リスク評価学、食品開発学、生理活性物質学、生理機能学、生体環境解析学のうちから入学後専修を希望する1科目を選択する。